

01

【研修体制を整備するための研修を実施】

9月30日から10月10日まで、社会保険庁にて大西短期専門家による研修を行いました。SINRAI プロジェクトにおける大西専門家のモンゴルでの研修は今回が8回目で、最後の研修となります。

プロジェクト開始当初は、社会保険分野における人材育成を目的に、研修体制を整備するための研修を実施しました。昨年8月からは、モンゴルの社会保険分野で新たな研修制度を構築する際の情報源とすることを目的に、「研修開発ガイドライン」を作成するための研修を行ってきました。



今回は、社会保険庁の職員やウランバートル市内の社会保険事務所の職員計23名が参加しました。研修の過程では、ガイドラインをより良いものにするために、大西専門家と参加者の間で、白熱した議論が行われる場面もありました。

2018年8月から開始した「研修開発ガイドライン」のドラフト案が完成し、社会保険庁研修広報局のツェツェグバーダム局長に報告しました。

研修開発ガイドラインは年明けの発行を目指して引き続き作成作業を進めて参ります。

02

【お客様満足度アンケート調査を実施しました】

10月2日から4日までの3日間、ウランバートル市内4か所（バヤンゴル区、バガノール区、チンゲルテイ区、ソングノハイルハン区）、地方4か所（トゥブ県、ドルノド県、フブスグル県、アルハンガイ県）の社会保険事務所において、お客様満足度調査を実施しました。

社会保険事務所の来訪者にアンケート用紙を配り、記入していただきましたが、アンケート用紙の配布については、大学生にお手伝いをお願いしました。お陰様で、8か所合計で2,441枚の質問票を回収することができました。

現在は集計作業中です。集計終了後は、集計結果を分析して社会保険サービスの課題を抽出し、業務改善に活かして一層のサービス向上を図ります。

調査業務に全面的に協力していただいた各事務所の職員の方々、また質問票記入にご協力いただいたお客様にも、御礼申し上げます。



03

【チンゲルテイ区ウィークリーミーティングを開催】

6月に引き続き、チンゲルテイ区社会保険事務所にて10月22日にウィークリーミーティングを実施しました。

今回のテーマである「日本の厚生年金保険料徴収事務②」では、厚生年金保険料を滞納している事業所にどのような対応をしているのかを説明しました。

日本では、滞納事業所に対して、保険料納付の指定期限を記載した督促状を発送し、指定期限までに納付が無い場合は延滞金が課せられることなどが法律に規定されており、滞納している事業所に対しては、日本全国312の年金事務所にて同じ事務を行っています。

ウィークリーミーティングに参加したチンゲルテイ区社会保険事務所のアリウナ所長からは、「日本ではモンゴルよりも滞納者に関する取り扱いが細かに整備されていて良いですね」との感想がありました。



「日本の厚生年金保険料徴収事務②」は、今後ウランバートル市内の他の社会保険事務所でもウィークリーミーティングとして研修を順次開催する予定であります。

業務終了後の遅い時間に34名の職員に参加いただいたチンゲルテイ区社会保険事務所の皆様、熱心に聴講して下さい、ありがとうございました。



04

【日本人大学生、モンゴル人大学生の2名のインターンを受け入れ】

SINRAI プロジェクトでは、日本人大学生とモンゴル人大学生の2名をインターン生として受け入れました。2人は、JICA プロジェクトの現場で、日本人専門家とモンゴル側カウンターパートが協力して事業を推進していく上での実務を体験しました。

2人のインターン生に、SINRAI プロジェクトで業務を行った感想をまとめてもらいました。



◎杉山美里さん（青山学院大学3年生）

この SINRAI プロジェクトで多くのことを学ぶことができました。

1つ目は、社会保険は当たり前ではないということです。モンゴルでは遊牧民や自営業者は社会保険の任意加入が認められているため、払いたくなければ払わなくて良いというシステムに驚きました。日本だと保険料を払わないと家まで訪問して納付を求めるので、とても大きな違いだと思いました。

学んだことの2つ目は、SINRAI プロジェクトで自分は何ができるかを模索し、行動することが大切だということです。移動して暮らしている遊牧民や貧しくて保険料を払えない方、情報を得られなかった人など、様々な人が社会保険のサービスから漏れてしまっているのが現状です。この現状を改善するために、私は広報活動に力を入れました。プロジェクトの SNS やニュースレターを使って記事を書きました。

最後は、社会保険のあり方についてです。以前は全ての人々が平等に幸せに暮らすために社会保険はあって当然だと思っていました。しかし、モンゴルの社会保険の制度はいくつか欠陥もあるので、社会保険を全て当てにして生きていくのではなく、人々が自立するための1つのツールとして認識することが大切だと考えるようになりました。

このインターン期間中に沢山の方に助けて頂きました。すべての皆様に感謝申し上げます。



◎バットエルデネさん（モンゴル科学技術大学4年生）

モンゴル科学技術大学外国語学部日本語コース4年生のバットエルデネです。

かつて、モンゴル科学技術大学鉱山学部鉱山エンジニアコースを卒業し、モンゴルの鉱山会社に勤めた後、大学に戻って日本語を学んでいます。

今回、JICA インターンシップ・プログラムで SINRAI プロジェクトに3週間参加しました。

SINRAI プロジェクトでは、ちょうど「お客様満足度アンケート調査」を行い、質問票が回収されたところでした。そこで、アンケートに書かれたモンゴル語の意見を日本語に翻訳する作業を担当しました。回収されたアンケートは4400枚余りで、その内約700人がコメントを書いていたので翻訳は大変でしたが、年金制度や社会保険サービスについて、モンゴルの人たちが期待することが分かり、とても興味深かったです。



このインターンシップを通して、モンゴル社会保険庁が SINRAI プロジェクトの支援を得ながら、モンゴルの社会保険制度を改善しようと真摯に取り組んでいることを知りました。

日本語の面では、業務を通じて、社会保険の専門用語や、ビジネス日本語を学ぶことができました。

これらの経験を自分自身の今後のキャリアに活かしていきたいと思えます。

SINRAI プロジェクト・オフィス住所・連絡先

住所：Khuulichid Street, Chingeltei District, Ulaanbaatar 15160, モンゴル社会保険庁内 6 階 602 号室

◇電話(FAX)番号：(+976)-11-325125

◇公式 Facebook アカウント：Жайка Нийгмийн Даатгалын төсөл

ニュースレターのバックナンバーはこちらから⇒<https://www.jica.go.jp/project/mongolia/014/newsletter/index.html>